

# [第26回] クイズ チャレンジ!!



琵琶湖文化館の収蔵品の中から、あるいは知っているようで知らない文化財のことについて、あれこれクイズにしてみました。さあ、答えがわかるかな？気軽にチャレンジしてみよう！

## 問題 71

こちらの絵をご覧ください。新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言が解除されたことを喜ぶおじいちゃん達…ではありません。これは、不老長寿の蓬萊山に集う5人の仙人たちを描いた作品です。幸せそうに杯をあおる仙人、お供の童子たちもずいぶん楽しそうです。



この作品を描いたのは、与謝蕪村に弟子入りした江戸時代中期の絵師・紀樞亭 (1734～1810) です。生まれは山城国 (京都府南部) ですが、晩年大津に移り住み、多くの作品を残しました。そこで問題です。

紀樞亭は、師である蕪村の画風を忠実に継承したことから、「〇〇蕪村」とも呼ばれました。さて、なんと呼ばれたのでしょうか？

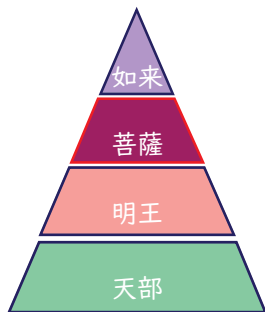
紀樞亭は、師である蕪村の画風を忠実に継承したことから、「〇〇蕪村」とも呼ばれました。さて、なんと呼ばれたのでしょうか？

ヒント：[ 収蔵品紹介 < 絵画 < 五老図 ]

ヒント：[ 収蔵品紹介 < 絵画 < 深林明月図 ]

- ① 大津蕪村      ② 近江蕪村      ③ 近似蕪村

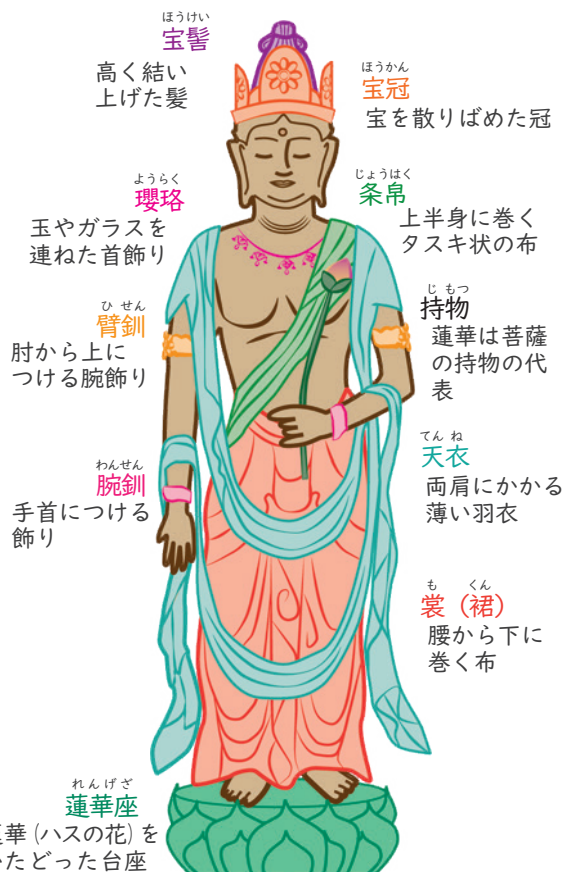
## 問題 72



菩薩は、悟りをもとめて修行に励むほとけさまです。如来とは違い、将来悟りをひらくことを目標に修行をしている姿をあらわした菩薩像。その多くは髪を結び上げて宝冠をかぶり、お洒落なアクセサリーを身につけるなど、着飾った姿であらわされます。

これは、古代インドの王侯貴族であった〇〇が出家する前の姿がモデルとなっているのですが、そこで問題です。その〇〇とはいったい誰でしょうか？次の中からお選びください。

- ① アショーカ王  
② マハーラージャ  
③ ゴータマ・シッタッタ  
④ マハトマ・ガンジー



菩薩は如来のサポート役をつとめながら、世の中の人々を救うため、さまざまな姿で人々を導いてくださるほとけさまです。



[第26回] クイズチャレンジ!!



【解答編】

答え 71

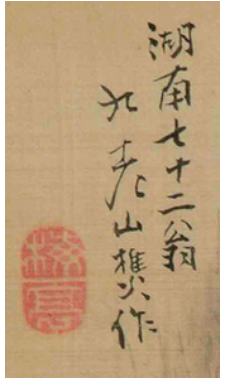
正解【② 近江蕪村】

紀樞亭が描く絵は、時に師である与謝蕪村の絵と混同されるほど似ており、蕪村画の忠実な継承者であったことがうかがえます。

本図に描かれた仙人をみると、目が点であらわされ鼻や耳が大きいところなど、師である蕪村の描き方とそっくりです。登場人物が愛らしくコミカルなところは師匠ゆずりといえるでしょう。一方で豊かな口髭のあらわし方や、山肌を刷毛で描いたような荒い表現をしているところなどは、樞亭画の一典型といえます。

大津に移り住んだ樞亭は、仙人など縁起が良いとされる吉祥画や、温和でのどかな山水画、俳画などを描き、落款には主に「九老」「湖南九老」と記しています。町人や俳人たちとの交流の中で、味わい深い作品を数多く残した樞亭。近江ゆかりの絵師が住んだ大津鍵屋町の借家跡には、「畫家紀九老僑居之趾」の標石が建っています。

地元の人々に「九老さん」と呼ばれ親しまれた樞亭は、文化7年7月7日、77歳でその生涯を閉じました。まさに七ならび、よほど7という数字に縁のある人物でした。



樞亭が住んでいた借家跡（光徳寺前）

- 外部サイト / 朝日新聞デジタル < 連載企画「滋賀 琵琶湖文化館収蔵品から」 < 「近江蕪村」が描く仙人の宴・五老図
- 収蔵品紹介 < 絵画 < 蓬萊群仙図

答え 72

正解は【③ ゴータマ・シッタッタ】

あるいは ガウタマ・シッダールタ  
つまりは「お釈迦さま」のこと

菩薩は、出家前の釈迦がモデルとなっており、古代インドの王侯貴族の姿であらわされます。服装は暑いインドの気候を反映しており、上半身は裸で、条帛という襷のような布を肩にかけただけです。また、下半身は裳（裙）という巻きスカートを巻いています。また、菩薩は蓮華、剣、お経、錫杖、水瓶など、さまざまな持物をもっています。この持物を見分けることで菩薩の種類を区別することもできます。

